

令和 3 年度 事業報告書

2021 年 4 月 1 日から

2022 年 3 月 31 日まで

学 校 法 人 森 岡 学 園

1. 法人の概要

名 称 学校法人 森岡学園（昭和43年5月8日法人設立）
代表者 理事長 市 田 守 男
住 所 大阪市住之江区南港中4丁目4番32号
電 話 06-6613-0800
FAX 06-6613-0801

設置する学校

- ①住 所 大阪市住之江区南港中4丁目4番32号
名 称 住の江幼稚園
②住 所 大阪市住之江区南港中4丁目4番32号
名 称 すみのえひよこ保育園

役 員 理 事 5名 ・ 監 事 2名 ・ 評議員 11名

理事会 2回開催 ・ 評議員会 2回開催

職 員 23名（住の江幼稚園）

2. 事業概要 （ 住の江幼稚園 ）

《教育理念》 たくましく生きる力を育む

《教育目標》 素直で明るく元気な子ども
健康で豊かな心を持つ子ども
進んで参加し仲良く遊ぶ子ども

《教育方針》 のびのび、いきいき、わくわく

《教育内容》 幼児期に、たくましく生きる力を育みます。

人生とは選択の連続であり、様々な場面で自らの選択が問われていきます。教育理念の『たくましく生きる力』とは、『自ら選択できるたくましさ』とも言えます。お子さまのたくましく生きる力を育みます。

・ 3大活動 1.つみき教育、2.芸術活動、3.どろんこ遊び

・ 12の特色（あそびの達人を生み出す幼稚園の12の特色）

1.愛情あふれる先生たちの保育力 2.たっぷり遊べる日常活動 3.子どもの育ちを支える保育内容
4.専門講師による正課授業 5.作りたてで美味しい手作り自園給食 6.社会への関心の目を育てる年間行事
7.四季を体感できる園外保育 8.充実した遊具と設備環境 9.働くママを応援するホームクラス
10.利用しやすい多彩なバスコース 11.降園後も楽しい課外授業

12.地域連携で進める保育支援

《園児数》

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定 員	3	100	3	105	3	105	9	310
2019年度	3	67	3	83	3	93	9	243
2020年度	3	83	3	68	3	70	9	221
2021年度	2	53	3	84	3	66	8	203

《諸費用》

項目	1号認定	2号認定
入園準備金	70,000 円	70,000 円
検定料	30,000 円	30,000 円
施設協力費	30,000 円	30,000 円
保育料（月額）	大阪市が定める金額	大阪市が定める金額
教育充実費	9,000 円	9,000 円
給食費（月額）	3,000 円	主食 3,000 円 副食 4,500 円
バス維持費（月額）	4,000 円	4,000 円
制服（冬）	男児 25,340 円 女児 25,440 円	男児 25,340 円 女児 25,440 円
（夏）	男児 14,040 円 女児 14,340 円	男児 14,040 円 女児 14,340 円
体操服（冬）	6,600 円	6,600 円
（夏）	4,100 円	4,100 円
通園カバン	4,930 円	4,930 円

《開園日時》 開園日 月・火・水・木・金曜日
開園時間 午前7時30分～午後7時30分

《預り保育内容及び費用》 月～金曜日 午前7時30分～午後7時30分
夏冬春休み中の預かり保育は、午前8時30分～午後6時
月払い約7,000円

《主な行事》

七夕まつり、運動会、造形あそび、絵画展、野点、バザー、生活発表会、音楽会、町会のまつり、小学校のイベントなどを通じて、地域との交流を深めている。

《施設関係》 園地面積 2, 0 0 0 m² 運動場面積 8 4 0 m²

《設備関係》 大型遊具

(すみのえひよこ保育園)

《園児数》

	0歳児		1歳児		2歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定 員	1	3	1	18	1	18	3	39
2019年度	1	4	1	15	1	17	3	36
2020年度	1	1	1	14	1	16	3	31
2021年度	1	4	1	6	1	18	3	28

《職員構成》

園長 1 名・副園長 1 名・主任保育士 1 名・保育士 8 名・栄養士 1 名・調理員 1 名・パート 4 名

《事業報告》

令和 2 年度の事業は、新型コロナウイルスの影響があったものの、保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

そして、経済状況は、飲食業・鉄道業・航空業・旅行業等のサービス業での悪化が深刻で、映画・演劇・コンサートの開催が大幅に制約を受け、文化活動は壊滅的な状況になっている。このような、コロナ禍の影響で、保護者の就労先も少なくなり、預かり保育も無償化の範囲を超えての利用は減少傾向になった。

当園では、新型コロナウイルスの感染対策を行い、園全体の安全を確保しながら、運営を行ってきた。

2 0 1 5 年から子ども子育て支援新制度が始まり、現時点では、6 割近い園が新制度に移行し、1 8 4 園が私学助成で事業の継続をしている。

また、2 0 1 9 年 1 0 月より幼児教育の無償化が実施されたが、2 0 2 0 年の出生数が戦後最小の 8 6 万 4 千人になり、新型コロナウイルスの影響から、2 0 2 1 年 8 4 万 8 千人、2 0 2 2 年 7 9 万 2 千人の試算があり、収入構造の根幹をなす園児数の確保に赤信号がともってしまった。

ついては、未就園児クラスの充実及び満 3 歳児入園者の獲得が、将来の園の存亡に大きく影響を及ぼすことになっているため、園児募集の方法についても、口コミも重要な手段であるが、ホームページやスマートフォンへの対応の充実を図ることも重要となってきた。また、園に興味のある人の囲い込みを進めるためにも、インスタグラム・メール配信等情報発信による持続的なアプローチの実行の検討もしていくこととする。

採用状況は、依然厳しい状況が続いており、養成校の定員が大幅に割れ、養成校自体が存亡の危機を迎えていることから、独自の教職員確保を考えなければならない。

以上のことを踏まえ、当園としては、事業継続を諮るため、地域の乳幼児数の推移及び独自の教職員採用計画を検討し、5 年後の事業予想（中期事業計画）を作成、整備する。合わせて、監督官庁の

調査に、しっかりと対応出来るよう、事務組織を見直し、事務管理体制の確立に努める。

自己評価については、確実に実施し公表している。また、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で検討し内容を別紙のとおりまとめた。

財務状況については、事業活動収支計算書での教育活動収支差額△19,745千円（△685千円）、経常収支差額比率△5.37%（前年度0.24%）となった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、72.97%（前年度64.05%）となった。

資金繰りについては、翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので問題ない。

3. 財務状況 別紙参照

4. 財務状況

学校法人 森岡学園

資金収支計算書

(単位:円)

科 目	2021年度
学生生徒等納付金収入	24,850,000
手数料収入	6,240,000
寄付金収入	0
補助金収入	280,210,835
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	27,041,370
受取利息・配当金収入	267,114
雑収入	8,466,577
借入金等収入	0
前受金収入	1,470,000
その他の収入	131,427,811
資金収入調整勘定	△ 24,327,567
前年度繰越支払資金	25,236,991
収入の部合計	480,883,131
人件費支出	248,811,514
教育研究経費支出	27,411,395
管理経費支出	77,773,785
借入金等利息支出	59,044
借入金等返済支出	0
施設関係支出	1,980,000
設備関係支出	4,309,610
資産運用支出	13,071,468
その他の支出	82,609,113
資金支出調整勘定	△ 13,706,853
次年度繰越支払資金	38,564,055
支出の部合計	480,883,131

事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目	2021年度
学生生徒等納付金	24,850,000
手数料	6,240,000
寄付金	0
経常費等補助金	280,210,835
付随事業収入	27,041,370
雑収入	8,466,577
教育活動収入計	346,808,782
人件費	248,811,514
教育研究経費	37,834,572
管理経費	90,144,863
徴収不能額等	0
教育活動支出計	376,790,949
教育活動収支差額	△ 29,982,167
受取利息・配当金	267,114
その他の教育活動外収入	0
教育外活動収入計	267,114
借入金等利息	59,044
その他の教育活動外支出	0
教育外活動支出計	59,044
教育活動外収支差額	208,070
経常収支差額	△ 29,774,097
資産売却差額	0
その他の特別収入	0
特別収入計	0
資産処分差額	256,629
その他の特別支出	0
特別支出計	256,629
特別収支差額	△ 256,629
基本金組入前当年度収支差額	△ 30,030,726
基本金組入額合計	△ 10,065,189
当年度収支差額	△ 40,095,915
前年度繰越収支差額	88,475,010
基本金取崩	0
翌年度繰越収支差額	48,379,095
(参考)	
事業活動収入計	347,075,896
事業活動支出計	377,106,622

貸借対照表

(単位:円)

資 産 の 部	
科 目	2021年度
固定資産	598,947,966
流動資産	63,632,104
資産の部合計	662,580,070
負 債 の 部	
科 目	2021年度
固定負債	9,460,268
流動負債	28,518,434
負債の部合計	37,978,702
純 資 産 の 部	
科 目	2021年度
基本金	576,222,273
繰越収支差額	48,379,095
純資産の部合計	624,601,368
負債及び純資産の部合計	662,580,070

財産目録

(単位:円)

1. 資産総額	662,580,070
Ⅰ 固定資産	598,947,966
Ⅱ 流動資産	63,632,104
2. 負債総額	37,978,702
Ⅰ 固定負債	9,460,268
Ⅱ 流動負債	28,518,434
3. 正味財産	624,601,368

監 査 報 告 書

2022年5月28日

学校法人 森岡学園

理事会・評議員会 御中

学校法人 森岡学園

監 事

監 事

私たちは、学校法人森岡学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第16条に基づいて同学園の令和元年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人森岡学園の2022年3月31日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

（注）監事 [] 及び監事 [] とも私立学校法第38条第5項に定める外部監事であります。

学校法人 森岡学園 住の江幼稚園 学校関係者評価

住の江幼稚園の学校関係者評価は、在園児の保護者からのアンケート、また保護者会での意見交換会での意見などの「声」を集めたうえで、下記評価委員の会議で保護者会の代表(会長)の総括を住の江幼稚園の自己評価、学校評価に表示します。

評価担当者 住の江幼稚園保護者会会長

評価会議 保護者会定例会議前に開催

(定例会がない場合は、保護者代表が来園時に行う。)

評価について 特に指摘すべき事項はなく妥当であると認められる。

学校法人 森岡学園 幼稚園型認定こども園 住の江幼稚園

令和3年度 学校関係者評価委員名簿

住の江幼稚園 保護者会 会長

住の江幼稚園 保護者会 副会長

(保護者会 会長、副会長が選任されない場合は保護者会代表とする)

住の江幼稚園 理事長

住の江幼稚園 園長

住の江幼稚園 主幹保育教諭 2 名

以上 6 名

自己評価結果公表シート

令和4年4月1日

住の江幼稚園

1. 本園の教育目標

教育理念「たくましく生きる力を育む」

教育目標「素直で明るく元気な子ども。
健康で豊かな心をもつ子ども。
すすんで参加し仲よく遊ぶ子ども。」

教育方針「のびのび、いきいき、わくわく。」

幼児の主体的な活動としてのあそびを十分に確保し、あそびを通して、たくましく生きる力を育むことを目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園型認定こども園となり、今後も従来どおり園内研修を実施し、幼稚園教育課程の内容を確認し教職員の研鑽を深める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
チーム保育などにおける教諭間の協力的な指導の状況	フリー、職員室チーム(教務等)と担任との連携状況は良好である。今後も職員会議等を通してコミュニケーションを図っていく。
幼稚園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	新幼稚園教育要領にも示されているように、幼稚園に求められる社会的なニーズも変化してきている。こうした背景を踏まえて、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズを答える必要があるか、具体的に検討を始めている。
職員研修について	園外研修にも積極的に参加している。園内研修については、重点計画に記載のとおりである。今後も教育の質の向上のために充実した研修を実施する。

保護者のニーズの把握につ とめ、要望や苦情に適切な 対応をはかる。	行事等についてアンケートを実施。出された 意見に対して、必要なものについては園の考 え方を示し、改善すべきものは改善するよう に取り組みつづける。
---	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価 し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすること ができ、それを実践する礎とすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者情報、地震津波情報、ミサイル発射情報、台 風等の災害、気象情報に対する園での対応強化を施 設・教員と共に危機管理マニュアルに基づき対策を 行ないたい。
預かり保育	保護者の実情や要望による預かり保育の実施状況 を把握し、分析して今後の預かり保育に反映させる。
園に対する保護者 の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつ つ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、 現代社会において求められる幼稚園の姿を確認する ことで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。